

2024年10月19日

150周年カウントダウンイベント第2回

「スポーツと東京大学」

草創期東京大学と

スポーツの日常／非日常

東京大学文書館准教授

百五十年史編纂室

中西啓太

# はじめに

## ・大学とスポーツ

現代 = しばしば高い競技レベル。スポーツによる進学も増加

→ 「大学」の草創期（1877 = 明治10年に東京大学設立  
→ 86年帝国大学、97年東京帝国大学）

= 欧米から近代スポーツが入ってくる・行われる場

= お雇い外国人教師によるスポーツの紹介  
→ 運動会の設立や学内イベント・対抗戦

# はじめに

= 非日常のビッグイベントとしてのスポーツ  
= 様々な記事、回想や逸話

⇔ 日常のキャンパス生活におけるスポーツ  
= 実態がつかみにくい

しかし、様々なスポーツは楽しまれたのでは？

→ 本学が所蔵する歴史史料から探ります

# 近代スポーツの流入

## ・開港後のスポーツの紹介

横浜などの居留地や、来航した軍人

→東京大学やその前身校には、

お雇い外国人教師を介して継続的にスポーツが流入

※前身の東京開成学校・東京医学校は、

外国人教師から外国語講義で最先端の学問を学ぶことに主眼

+ その準備教育として外国語学習の場

= 東京英語学校→東京大学予備門→「一高」

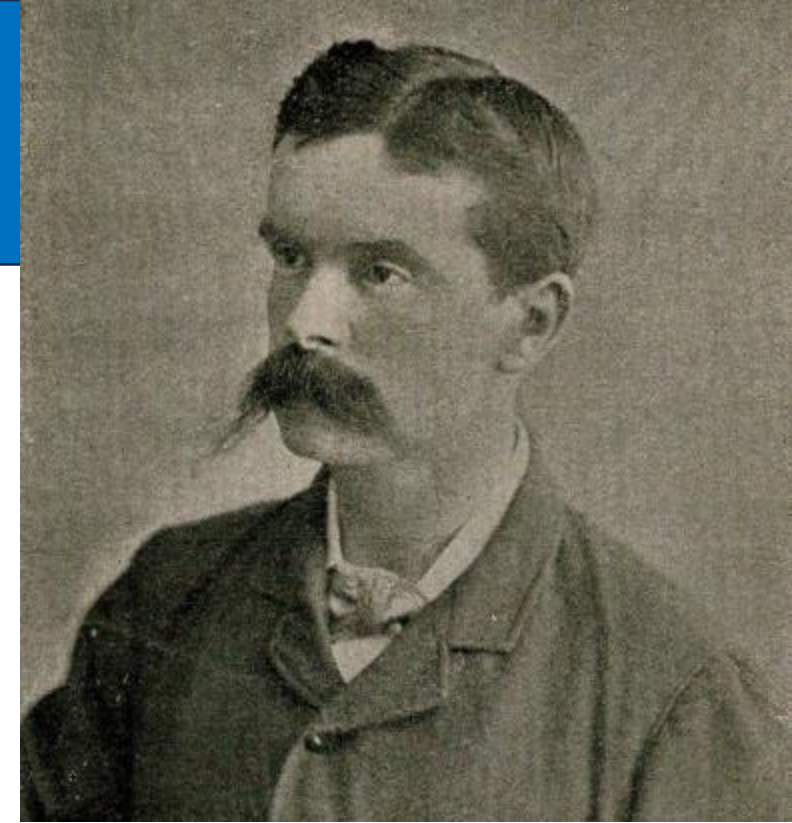
# 近代スポーツの流入

## 例、F.W.ストレンジ（イギリス）

東京英語学校・東京大学予備門の教師  
1875年来日

= 様々な近代スポーツを持ち込み、  
プレーし、活動の場を作っていた

※イギリスでは1863年フットボール協会・71年ラグビー協会など、  
統ルールールの形成や大会を管理する協会の結成が進んだ時期



F.W.ストレンジ  
（武田千代三郎『理論実験 競技運動』博文館、1904年より）

# 近代スポーツの流入

## ・実戦の場

ストレンジの働きかけで、  
1883年6月16日、東京大学・予備門合同の運動会  
＝競争・跳躍・投擲が揃う→後に秋季陸上競技会

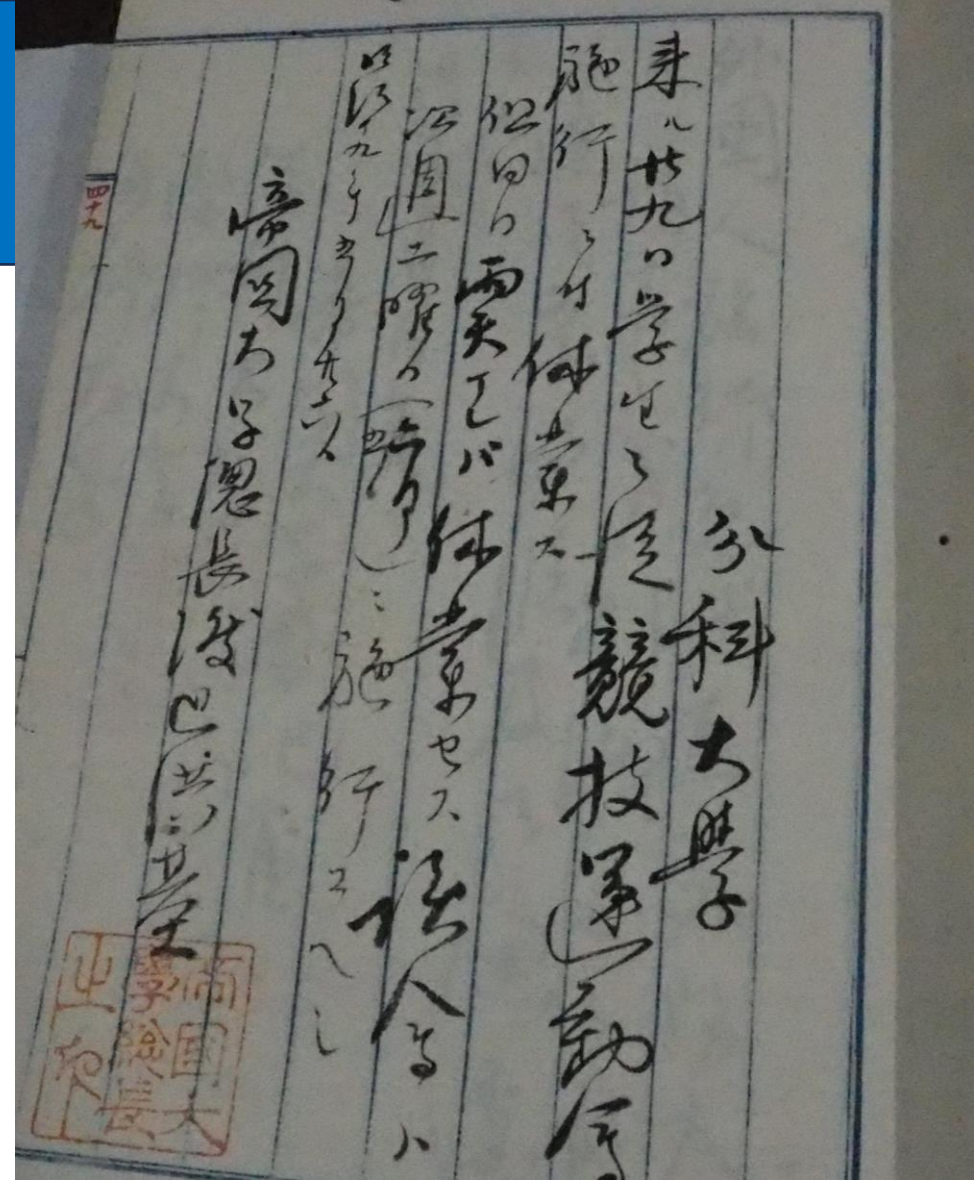
ボート熱も高まっており、  
1884年10月17日隅田川上流（吾妻橋）でボートレース  
→後に春季競漕大会、学部（1886～1919は分科大学）対抗戦

# 近代スポーツの流入

## ・ 実戦の場

右の史料

= 1886 (明治19) 年5月26日付  
帝国大学総長→各分科大学 (学部) 宛  
「来ル廿九日学生々徒競技運動會  
施行ニ付休業ス」



「競技運動會ニ付休業之回達」  
『各分科大学往復 明治十九年分』  
東京大学文書館所蔵S0005/16/0026

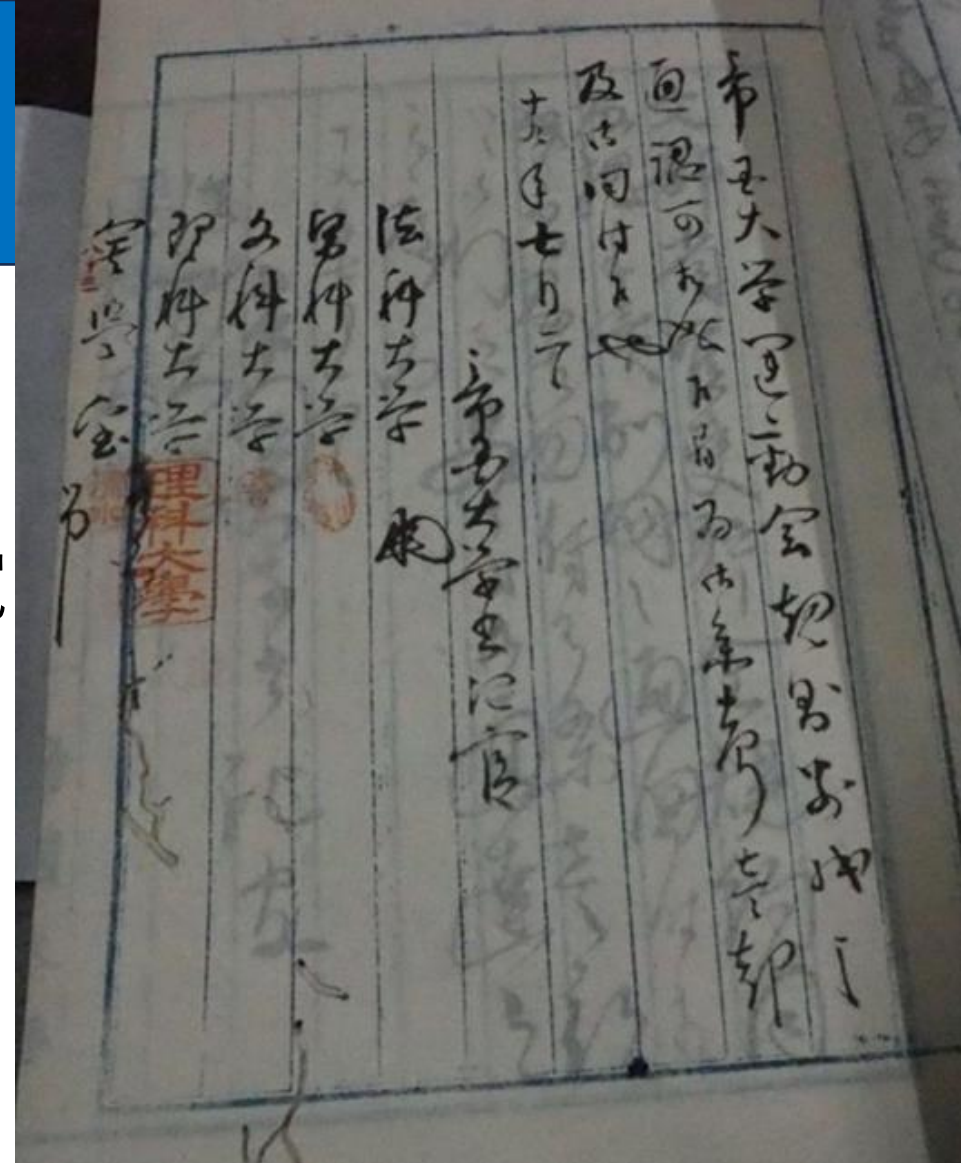


# 近代スポーツの流入

## ・ 運動会の設立

1886（明治19）年7月2日付

帝国大学書記官→各分科大学・舎監室宛  
= 運動会の規則が認可されたので回付



「帝國大學運動會規則回付」  
『各分科大学往復 明治十九年分』  
東京大学文書館所蔵S0005/16/0047



# 近代スポーツの流入

## ・ 運動会の設立

規則

第2条：本会の趣旨は会員の身心を強壯快活ならしめ、  
兼ねて交互の親睦を謀るに在り。

会員

= 職員（官吏身分の者） ・ 卒業生 ・ 学生ら

→1898年に社団法人東京帝国大学運動会へ

= 規則に漕艇・陸上運動・球戯・水泳・柔道・撃剣・弓術  
の7部を置く、とある →次第に増加

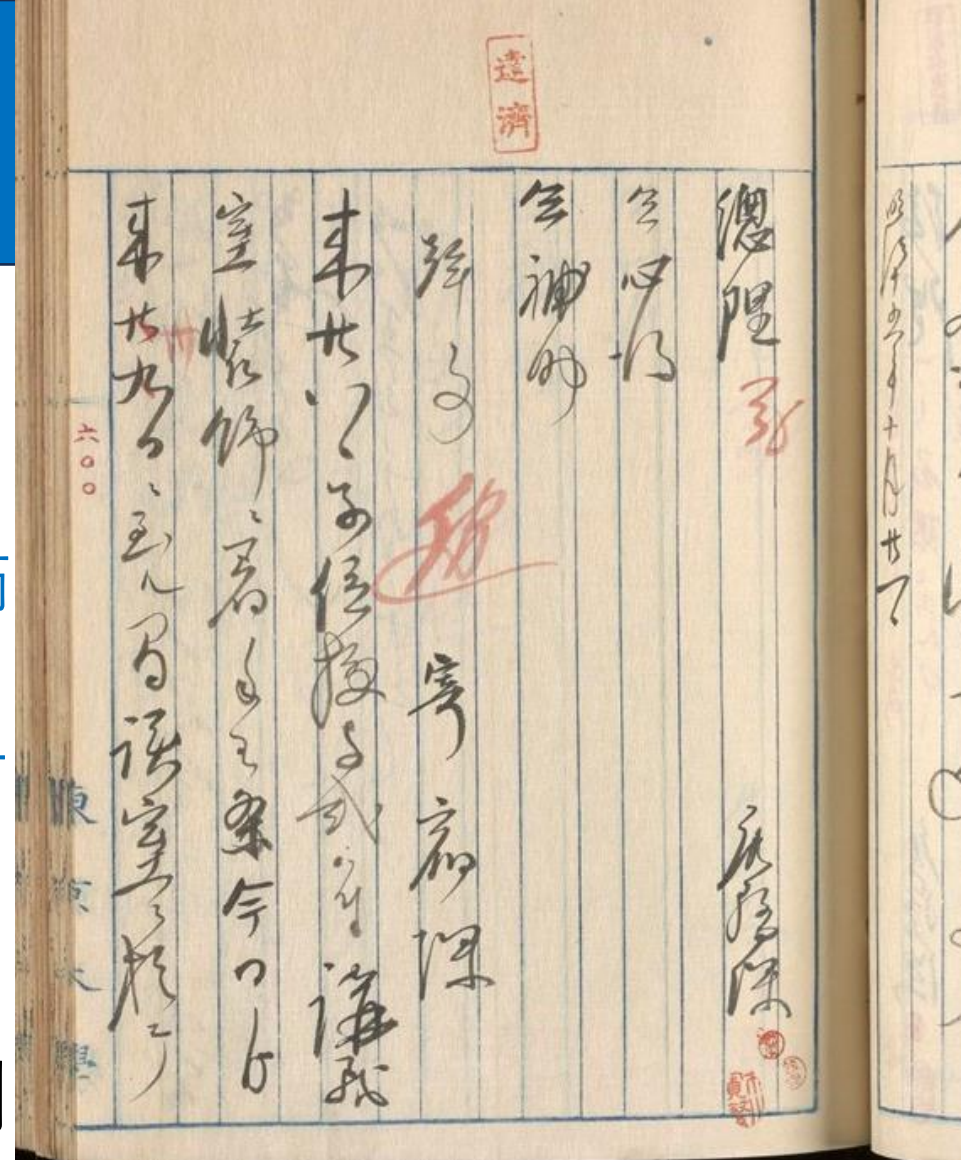
# 日常的なスポーツの痕跡

## ・学生の日常とスポーツ

例、1882（明治15）年10月23日付

「来廿八日学位授与式ニ付、講義室装飾ニ着手候条、今日ヨリ来卅日ニ至ル間、該室ニ於テ学生々徒撃剣演習之義見合可申、此旨相達候事」

= 「演習」が部活動や教育活動かは不明だが、教室を使って撃剣に汗を流していた学生たちが居たことが分かる。



「学位授与式ニ付学生々徒撃剣演習ノ義見合候達ノ件」

『文部省往復 附学位授与式関係書類 明治十五年分 五冊之内戊号』 S0001/Mo053

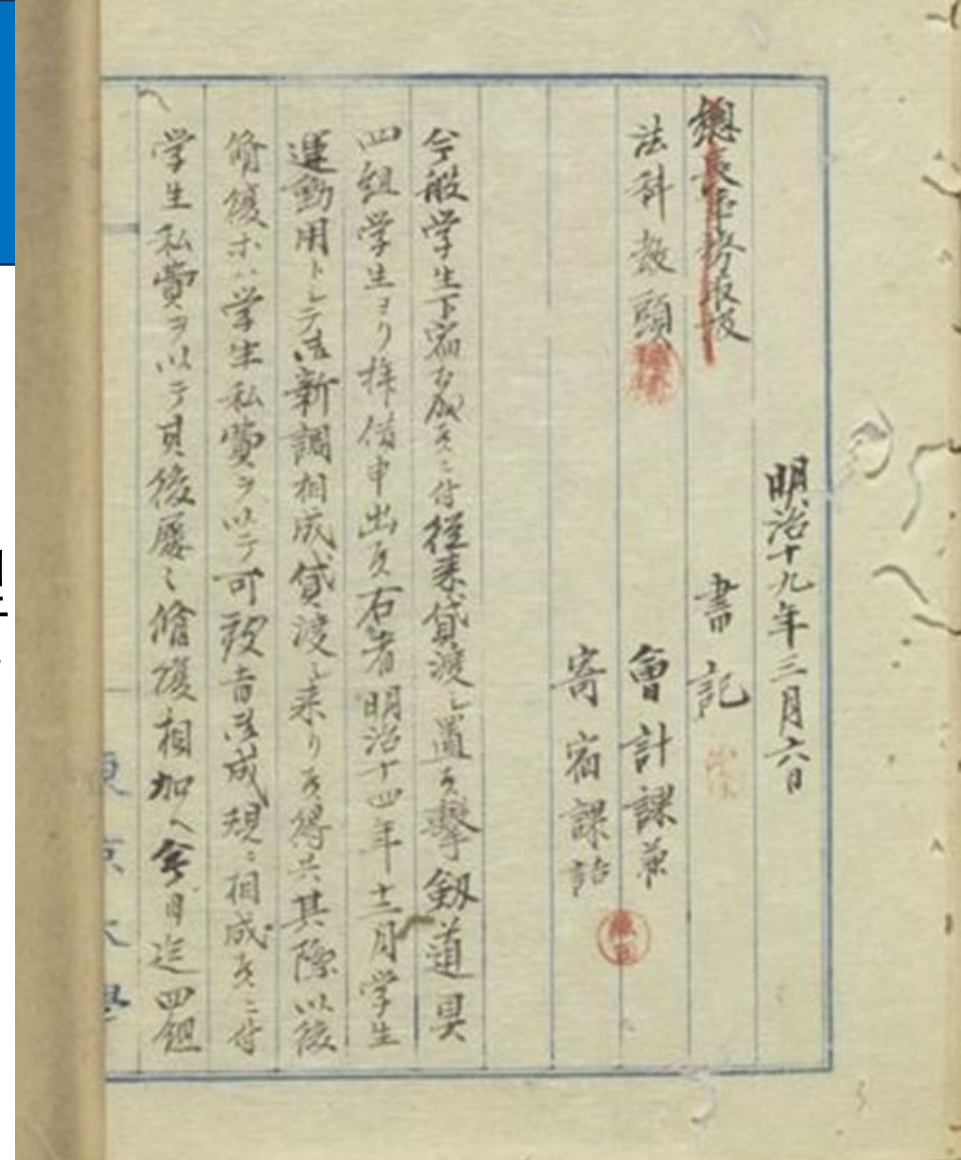
# 日常的なスポーツの痕跡

## ・学生の日常とスポーツ

例、1886（明治19）年3月6日付

= これまで学生に貸し出し、自費で修理させてきた撃剣用具を、寄宿舎を出て下宿を始めてからも引き続き貸してもよいか？と内部で伺い。

= 道具の貸出という大学側の支援



『雑書類 明治十九年二月』収録  
(総合図書館所蔵『東京帝国大学五十年  
史資料』・目録番号306)

# 日常的なスポーツの痕跡

## ・学生健康とスポーツ

例、穂積陳重（法学部長）の指摘  
（『東京大学年報』第3号、1884年）  
＝学生が健康を害していることを懸念。  
特に体力が低いことを原因とし、  
「体操等ヲ奨励セサル可ラス」  
「本学既ニ撃剣術等ノ設置アリ、学生モ亦  
自ラ悟ル所アリ撃剣柔術等ニ従事スル者日  
ニ多キヲ加フルハ、最モ喜フヘキ所ナリ」



穂積陳重  
（小川一真編『東京帝国大学』  
小川写真製版所、1900年より）



# 草創期東京大学のスポーツ

- ・ **非日常のビッグイベントとしてのスポーツ**

= 西洋から持ち込まれたスポーツを大学中で楽しむ様子

- ・ **日常の親睦、健康増進としてのスポーツ**

= 必ずしも設備が整っていたわけではないが、  
道具の貸与のような支援や後押しする言説

# 参考文献一覧

- ・高橋孝蔵『倫敦から来た近代スポーツの伝道師：お雇い外国人F.W.ストレンジの活躍』（小学館、2012年）
- ・東京大学百年史編纂委員会編『東京大学百年史 通史一』（東京大学、1984年）
- ・「競技運動會ニ付休業之回達」『各分科大学往復 明治十九年分』東京大学文書館所蔵史料S0005/16/0026
- ・「帝國大學運動會規則回付」『各分科大学往復 明治十九年分』東京大学文書館所蔵史料S0005/16/0047
- ・「学位授与式ニ付学生々徒擊劔演習ノ義見合候達ノ件」『文部省往復 附学位授与式関係書類 明治十五年分 五冊之内戊号』東京大学文書館所蔵史料S0001/Mo053
- ・『雑書類 明治十九年二月』（総合図書館所蔵『東京帝国大学五十年史資料』・目録番号306）
- ・『東京大学年報』第3号、1884年